

介護の担い手となるまでの一体的支援事業における効果検証方法

1 目的

モデル事業（6カ月間）の実施結果を分析し、「ボランティア参加を促進するための効果的な取組」「介護人材の裾野・間口の拡大への効果」「介護事業所の業務改善への効果」を検証するとともに、その効果や課題を整理し、今後の事業展開につなげることを目指します。

2 効果検証の流れ



3 検証内容

検証項目	確認したいこと
介護の魅力発信・意識変容	介護へのイメージが改善したか
人材確保・就労へのステップ	ボランティアから研修・就職につながったか
介護事業所の業務改善	業務負担の軽減や継続利用につながったか

4 取得データ

分類	取得項目	取得対象	
		ボランティア	介護事業所
参加者属性	年代、性別、介護勤務歴	○	
	介護サービス種別		○
活動実績	謝礼金額別の募集件数、応募数、マッチング数		○
	参加数、リピート率	○	
参加理由 満足度	参加理由、参加してよかった点	○	○
意識変容	参加前後の介護業界に対するイメージの変化	○	
就労状況	研修受講者数、採用（予定）者数	○	
事業評価	継続希望、要望・意見	○	○

5 分析（クロス集計）例

分析したいこと	使用するデータ
若い世代ほど参加しやすいか	年代×応募・参加数
介護経験がある人は継続しやすいか	介護勤務歴×リピート率
謝礼額は応募に影響するか	謝礼額×応募数
どのサービス種別でマッチングしやすいか	介護サービス種別×マッチング数